

## 学 科

No.	所属	内部質保証推進会議からの改善・向上に向けた提言
1.	国文学科	<p>1) すべての授業においてアクティブラーニングの実施が求められていますので、学生のコンピテンシー向上等の効果検証に基づき、「学位授与方針に示す「5つの能力」の習得と授業形態の関連について」を参照（学習支援専門部会作成「令和7年度以降の授業形態について」（令和6年9月18日教授会（報告））するなど、学生の能力伸長にとって適切な教育方法を検討して選択してください。</p> <p>2) 教育内容については、現代の文学・日本語分野に関して、在学生の関心の高まりや履修者の増加に十分に対応できていない状況が見受けられます。さらに、人口減少を見据え、既存層以外の潜在的入学者層のニーズへも対応することも急務です。これらの観点について、客観的なデータや調査結果に基づいた施策の検討を行ってください。その際、履修者超過が見られる現代日本語関係領域や、潜在的なニーズが見込まれる領域に対して、現行の他領域の教員枠を転換する対応策についても同時に検討をしてください。その成果について現在進行中のカリキュラム改革の議論に適切に反映してください。</p> <p>3) 単位不認定の要因について、個々の学生に起因するものみに帰着させるのではなく、学科全体としての支援体制、対策措置、介入等は常に検証し、工夫を重ねる必要があります。特に課題として挙げられている『演習 IIB』など、卒業に影響する時期に低評価や単位不認定となることは、学生の心身やキャリアにとっても大きな影響を及ぼすため、受講時の早い段階や低学年次から支援する方策や、他部局と連携した支援方策についても検討し、必要な対策を講じてください。</p> <p>4) 学生参画以外のFDについて、FDが主目的ではない別の取り組みをFD事業としてとして計画・報告されている事例があります。副次的なFD効果を否定するものではありませんが、R8年度からは、FD事業本来の趣旨に即してFD計画・報告はFD自体を主目的とする取り組みとして実施し、FDとしての成果を検証してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
2.	英語文化コミュニケーション学科	<p>1) 学生参画FDについては、他学科においては、対面形式であっても効果的な意見収集が行われていることを踏まえ、次回以降はアンケート等の実施だけでなく、より自由かつ率直な意見交換が可能となるような対面形式の意見交換会を企画してください。</p> <p>2) 受験生の関心の高い「語学力向上」に関しては学科を挙げて尽力しており、その結果を知るべく、TOEIC-IPを全学年にわたって継続的に実施している」とあるが、今年度の自己点検・評価では1年生の伸びしか報告されていません。R8年度は、卒業時に目指す語学力やスコアを念頭に、段階的及び4年間での伸びや達成度についても検証、分析し、その結果を基にした対策を講じてください。実践的な語学力向上の取り組みとして、ホテル業界でのインターンシップ制度の構築は非常に有意義と考えます。今後の発展的施策として、ホテル等のサービス業に限定することなく、様々な業種の企業等との連携を強化し、実社会における実践的なコミュニケーションを学ぶ機会へと展開してください。また、上記2点の成果は、現在学科で検討されているカリキュラム改革に反映するとともに、昨年度同様、成果をわかりやすく伝える広報企画を入試広報課と連携して策定し、多様な媒体を活用して積極的に発信し学生募集へ繋げてください。</p>

		<p>3) 受験生の関心が高い留学への支援強化の一環として、経済的支援制度の必要性が課題として挙げられました。現在の奨学金制度は、平成22年度以降に制度化されたものですが、現在の留学費用の高騰という実情を踏まえ、参加者を安定的に確保できるように、他大学の事例等も参考にしながら、現状に即した新たな制度案について、国際交流課と連携して提案してください。その際、早期の実現を視野に入れ、具体的な導入スケジュールを提示してください。</p> <p>4) 成績評価に関して、成績分布に顕著な差があることは課題として挙げられていますが、高評価へ偏る傾向も見受けられるため、評価の妥当性や公平性の観点から、学科FDとして検証し、改善施策を提示してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
3.	史学科	<p>1) 資格系科目の開講時期、時間割、授業形態に関する学生からの意見が寄せられている課題については、自学科のみでの対応が困難な場合、教務課と連携して改善策を講じる等、学生参画FDで得られた学生の声の具現化に向けて、主体的かつ前向きに取り組んでください。</p> <p>2) 現行の3コース縦割りが強調されたカリキュラムは、歴史総合の主旨とそぐわない狭い範囲の学びと受け取られるリスクがあります。歴史学科として歴史を総合的・横断的にとらえる学びを提供することを示すカリキュラム構築・広報に取り組んでください。また歴史学の手法（課題設定→調査・比較検討→論述）は、ビジネスの場でも通用するスキルであることを受験生・在学生に強く示し、単に専門職や教職だけでなく、卒業後の多様なキャリアに繋がることを念頭に、基本的な方法論の習得に加え、比較・批判的思考や課題解決力等の育成を目指すことが必要です。これをふまえたカリキュラムの抜本的な見直しを実施し、現在進行中のカリキュラム改訂に適切に反映してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
4.	教育学科	<p>1) 非常勤講師も含めたループリック評価に関する勉強会を通じて、評価の在り方や教育の質の保証、学習成果の可視化について共通理解が図られています。このような取組は、学科全体で今後の取り組みを進めるための土壌を育成するものであり、大変有意義であると評価できます。</p> <p>2) 「グローバルな視点育成」は大変意義のある活動だと思いますが、将来教員となった際にどのような効果をもたらすのか、また教育現場においてどのように還元され得るのかについては、広報上で明確にされていません。実社会でどのように生きるかや現場からの期待などを、受験生に分かりやすく発信してください。また、海外フィールドワークは教員個人の尽力に支えられている面が大きく、今後は学科として組織的に持続可能な仕組みを構築してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
5.	心理共生学科	<p>1) 「オープンキャンパスや来校した高校生やその保護者、在学生、入学生からは心理共生学部という名称からは、養護教諭や社会福祉士を養成している学部とはわかりにくいという意見が多数寄せられている。」について、受験生の志望校選択行動として、免許・資格を希望する場合には、当該免許・資格名を検索</p>

		<p>キーとして情報収集を行う傾向があり、また、競合する偏差値帯において他大学で「養護」や「社会福祉」を冠する学部・学科名が多いわけではないため、心理共生学科については、必ずしも学科名が進路選択の主たる要因とはならないと考えられます。一方、当該免許・資格が取得可能であることは積極的・継続的に示していく必要があるため、受験生に確実に伝わるような広報上の取り組みは継続してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
6.	食物栄養学科	<p>1) 免許・資格課程をカリキュラムの柱とする学科において、国家試験合格率は教育成果指標の1つとして、受験生・保証人の注目度が高い事項となっています。合格率の低下について、要因や背景を継続的に分析・検証し、検証結果に基づく実効性のある対策として、カリキュラムや授業方法の見直し、学修支援の充実、募集広報施策など、具体的な方策を明示のうえ、着実に実行してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
7.	生活造形学科	<p>1) 改組の議論を踏まえ、将来構想で描かれる人材育成、特に卒業後の進路（職業）に接続するための具体的な授業内容や教育手法を具体化してください。併せて、改組内容を念頭に置いた学生募集に繋がる広報施策についても入試広報課と検討のうえ、実施してください。</p> <p>2) 学生参画以外のFDについて、FDが主目的ではない別の取り組みをFD事業としてとして計画・報告されている事例があります。副次的なFD効果を否定するものではありませんが、R8年度からは、FD事業本来の趣旨に即してFD計画・報告はFD自体を主目的とする取り組みとして実施し、FDとしての成果を検証してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
8.	現代社会学科	<p>1) 挙げられた課題解決のため、その改善・発展方策について、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、確実に実行できるよう計画的に進めてください。</p>
9.	法学科	<p>1) 志願者が継続して減少傾向にあることを踏まえ、全国の法学系の志願者動向を調査、検証するとともに、志願者数の減少に対する要因分析の一環として、現行のカリキュラムおよび学科の特色が、潜在的志願者の期待や関心に的確に対応しているかどうかを検証してください。さらに、学生募集状況の改善のための具体的対策として、卒業生をロールモデルとして位置づけ、その実績や経験を広報活動に活用することは、志願者の関心を高める上で有効な方策と考えられます。入試広報課と連携し、情報収集を行いながら対策を協議してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>

		的に進めてください。
10.	データサイエンス学科	1) 挙げられた課題解決のため、その改善・発展方策について、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、確実に実行できるよう計画的に進めてください。

### 大学院専攻

1.	院・国文学専攻	<p>【全専攻共通】</p> <p>1) 第二期中期計画において、「リカレントと大学院（学位取得）の連携体制の構築」を通じて、「地域、行政、産業界と連携した活動による社会の課題解決・人材養成への貢献」を目指すことが掲げられています。また、大学院における人材養成・教育研究上の目的には、研究者に加え、「高度な専門的職業人」として社会で活躍できる人材の育成が明示されています。中期計画および大学院の目的を踏まえ、研究職以外の多様な進路を念頭に置いた指導、キャリアモデルの提示、就職支援体制の充実等、改善・発展に向けた具体的な方策を講じてください。</p> <p>2) 大学院における学生募集に関しては、学部卒業生だけでなく社会人学生や留学生の獲得が不可欠であることを念頭に、それぞれの対象に応じた募集施策を講じるとともに、当該志願者らの修学動機に応えるカリキュラムとなっているか検証してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
2.	院・英文学専攻	
3.	院・史学専攻	
4.	院・教育学専攻	
5.	院・心理学専攻	
6.	院・児童学専攻	
7.	院・表現文化専攻	
8.	院・食物栄養学専攻	
9.	院・生活福祉学専攻	
10.	院・生活造形学専攻	
11.	院・生活環境学専攻	
12.	院・公共圏創成専攻	
13.	院・法学専攻	

### 全学の視点（事務部局）

No.	基準と主管部局	内部質保証推進会議からの改善・向上に向けた提言
1.	大学改革推進室	<p>1) 学内データの整理については、教学マネジメントだけでなく、情報公表や補助金申請、DX等、今後の大学運営全体にとって基盤となる事項であることをふまえ、全学的な課題として、関係部局の連携のもとで改善活動に着手してください。</p> <p>2) 現行の学修成果の評価については、DPにおいて学生が身につけるべき能力が定義され、アセスメント・ポリシーにおいて測定方法が示され、得られたデータを活用した自己点検の仕組みも整備されていますが、達成度の水準については明確な基準がなく、各学科の判断に委ねられているのが現状です。また、外部評価における提言として、自己点検・評価においても、可能な限り客観的な目標の設定や定量的な指標を用いた点検・評価の実施が求められています。これらをふまえ、教学面においては、全学的な方針としてのアセスメント・ポリシーを見直し、各学科レベルにおいては具体的な指標と達成すべき水準を組み込んだアセスメント・プランの策定を検討してください。運営面においては、学生募集や研究支援などの部門から定量評価</p>

		<p>を促進してください。</p> <p>3) その他、課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
2.	教務課	<p>1) R9年度からの新たな教育課程の導入に向けて、各学科が早期に準備を進め、早い段階で課題等を抽出し対応策を講じられるよう、R7年度中のできる限り早期に、新教育課程に向けた授業実施方針を策定・通知してください。また、同時に、教務システムの新教育課程への対応について、令和7年度に向けたシステム導入時に明らかとなった課題等を踏まえ、綿密に検証のうえ実施してください。</p> <p>2) その他、課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
3.	国際交流課	<p>1) 認定日本語教育機関認定の申請は行わないという決定をふまえつつ、留学生受入をさらに推進するため、現行の日本語プログラム（高度日本語プログラムを含む）の今後や、留学生受入のための方策（語学科目以外のコンテンツ科目履修への移行を含む）の検討を、関係部署及び関係会議体において着手してください。</p> <p>2) また、課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
4.	入試広報課	<p>1) 第二期中期経営計画において設定されたKPIである「入学生確保状況（倍率・定員充足率・内部進学率）」および経営方針「大学の在学生数が収容定員の93%を下回る状況に至った場合には、学校規模の検討や人件費の抑制に取り組む方針とする。」ことを踏まえ、挙げられた課題について、要因を分析・検証し、具体的な改善・向上施策を実施してください。特に、募集マーケティングの強化として、接触者・受験生の情報をデジタルシステムで一元管理し、地域、学年、志望学科等のセグメントで、個別に最適なタイミングで接触して志望度を醸成して出願まで引っ張っていく体制の構築とあわせて、情報発信におけるSNS活用強化、各学科の発信内容の読み手を意識した監修・ブラッシュアップに取り組んでください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>

5.	学務事務課	<p>1) 現在、多くの「職制」が設けられていますが、それぞれの職務内容や権限が不明瞭である点が課題となっています。そのため、新たな職制を追加する前に、人事課や研究企画課などの関係部署と連携し、既存の職制の整理・明確化を進めてください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
6.	学生支援課	<p>1) 休学・退学は、個々の学生の修学だけでなく、大学の財政面への影響や訴訟リスクを内包した課題です。改善に向けて、休退学の経年推移や学科別比較データを各学科とも継続して共有しつつ、休退学率の高い特定の学科については、未然に防ぐための指導体制の抜本的な見直しや早期介入などの具体的な方策について、学生支援部において早期に取り組んでください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
7.	進路・就職課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
8.	図書課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
9.	研究企画課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
10.	施設課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
11.	情報システム課	<p>1) 情報セキュリティインシデントの増加の現状を踏まえ、講義形式だけでなく、実例に基づく演習やシミュレーションの実施の検討など、防止対策を強化してください。</p> <p>2) 学内データの整理について、DX 含め今後の大学運営全体にとって基盤となる事項であることをふまえ、全学的な課題として、関係部局の連携のもとで基本的なデータ整理方針の策定や実際のデータ整理の推進に着手してください。</p>

		<p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
12.	連携推進課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
13.	総務課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
14.	財務課	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
15.	人事課	<p>1) 全体を通して、「職員数の不足」「業務量の過多」「業務内容に応じた人材の不足」が要因として挙げられていますが、これらの指摘については、具体的な根拠やエビデンスの提示が必要です。例えば、他大学におけるSS比（学生数と職員数の比率）などの客観的な数値を参考にし、適切な実態把握に努めてください。さらに、組織内で必要とされる業務の種類や業務量を明確にした上で、それに対応するために求められる能力に基づいて、適切な職種と人員数を算出する必要があります。これらの対応にあたっては、「事務系DXのための業務改善プロジェクト」や「財務シミュレーション」との連携を図り実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
16.	法人事務室	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、今年度内あるいは次年度に改善・向上施策を実施してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>

全学共通科目

No.	科目区分	内部質保証推進会議からの改善・向上に向けた提言
1.	仏教学	1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。
2.	言語コミュニケーション科目	1) 授業上のトラブルに関して、今後の再発防止に向けて、講師会に参加できなかった非常勤講師を含め、内容を各教員に周知徹底するよう継続的に対策を講じてください。 2) その他、課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。
3.	情報基盤科目	1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。
4.	健康科学科目	1) 女性の健康に関する内容、教職課程に対応した内容となっているか等を継続して検証し、必要に応じて科目内容の見直しを行ってください。 2) その他、課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。
5.	ジェンダー科目	1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。
6.	連携活動科目	1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。
7.	教養科目	1) クラスの大規模化についての課題への対策の一環として、また、オンデマンド授業を主要な授業形態としている教養科目においては、TA（場合によってはSA）による学習支援が効果的であると考えられます。積極的な活用を促進するため、現行の大学院生の専門分野に限定された活用にとどまらず、より広義の教員支援・補助を可能とする運用制度の構築について、教務課と連携して検討を進めてください。 上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。

		り計画的に進めてください。
8.	日本語教師課程科目	<p>1) 現行の運営体制においては、担当教員に業務が集中している状況が見受けられます。持続可能な教育環境の構築のためにも、組織的な対応が必要と考えられますので、関連する教職員・部局間で、運営体制の見直しに向けた具体的な対策を講じてください。</p> <p>2) 登録日本語教員養成機関の登録については、全学的な課題として、在学生・受験生のニーズや運営体制など、関係する部署・部局と実施可否も含めて検討を開始してください。</p> <p>3) その他、課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
9.	司書課程科目	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>
10.	博物館学芸員科目	<p>1) 課題として挙げられた事項について、要因を分析・検証し、シラバスや授業方法等の見直しに反映してください。</p> <p>上記提言についての改善・向上活動の実施状況・成果については、次年度の自己点検・評価（令和8年6月頃）において確認しますので、今年度中より計画的に進めてください。</p>

**総括・その他の対応方針**

- 1) 令和7年度受審途中にある認証評価に関連して、分科会より付された意見において、本学の内部質保証における内部質保証会議と他の会議・専門部会等との関係性整理や、内部質保証会議から各学科・部局への提言をうけた後の各学科・部局における改善・向上活動の不明瞭さ等の指摘がなされました。今後、実地調査や最終的な評価の過程で指摘事項の内容が変更される可能性はあるものの、最終結果を踏まえて、体制や自己点検から改善までのフローを見直すことが求められます。内部質保証の実質化を実現するためには、具体的かつ実効性のある対応が不可欠です。